



きずな 絆

～安心の未来に向けて～

きずな
「絆」

平成18年度統一スローガン「ひと・まちの『絆』」
でつくる安心都市・京都より、重要なキーワードである1文字をタイトルにしました。

山科消防署と山科消防団、そして山科区民の皆様方と築いてきた「絆」をより一層強固なものとし、安全・安心の山科を目指します。

発行日 平成18年10月
発行 山科消防署
(山科消防署発足30周年委員会)



京都市印刷物第180065号

山科消防署・山科消防団発足30周年

ごあいさつ



山科消防署長 岩崎 博

山科消防署は、昭和51年10月1日に東山消防署山科分署から昇格、京都市山科消防署として誕生し、今年で30年となります。

のどかな田園地域から活気のあるまちとして発展した山科区は、昭和51年の分区時12万9千人であった人口も、現在13万7千人になりました。人口の増加に加え、少子高齢化が進む今日、消防署としては、火災減少に向けた予防対策及び住宅火災による焼死者を防止するための住宅用火災警報器の設置促進、救急需要対策、そして大地震や台風、集中豪雨といった自然災害への対策を重点に取り組んでいます。

とりわけ、大規模災害への対応にあっては、消防団や自主防災組織をはじめとする地域の協力体制が必要であり、山科区総合防災訓練や各学区での防災訓練の実施、自分たちのまちの防災について考えていただく「身近な地域の市民防災行動計画づくり」や「市民防災会議」を通じた情報の共有化、連絡体制の確立により、災害対応力の向上を目指した取組を推進しています。

今後、さらに都市機能や生活、自然環境の変化にともなう災害の複雑多様化も予測されますが、いかなる災害にあっても、区民の皆様の生命、身体、財産を守るという消防に課せられた「責務」と「期待」に応えるとともに、「ひと・まちの『絆』」でつくる安心都市・京都を目指して、消防団や自主防災組織、区民の皆様との情報の共有と連携をより深め、消防防災の新時代を切り拓いてまいりたいと存じます。

どうか今後とも、消防行政への御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。



山科消防団長 川中 長治

山科消防団は、発足30周年という記念すべき年を迎えることとなりました。これもひとえに、区民の皆様をはじめ、関係各位の御支援、御協力の賜であると深く感謝申し上げます。

昭和51年10月に山科区が誕生して以来、このまちは京都の東の玄関口として発展し続け、生活や社会情勢の変化とともに災害も多様化してまいりました。この30年を振り返ると、700件を超える火災をはじめ、台風や集中豪雨といった自然災害など様々な災害が発生してきましたが、わたしたち消防団は、消防署と一丸となってこれらの災害に立ち向かってきました。

特に阪神・淡路大震災以降、消防団の責務はますます重要となり、地域の皆様から防火防災のリーダーとして期待が高まるなか、郷土愛護と奉仕の精神のもと、地域に密着した活動として、広報活動をはじめ、防火の訪問や応急手当指導などに取り組んでいます。また、災害発生時には、最大限の力を発揮し、地域の皆様の生命及び財産を守り、被害の軽減を図るため、日々消火や救出救護訓練を行い、災害対応力の向上を図っています。

節目の年を迎えるにあたり、今一度「がんばろう 山科消防団 世代を超えて」というスローガンのもと一致団結し、地域の皆様とのパートナーシップを強固にするとともに、永きにわたり先人が守られてきたこのまちを、災害に強い「いつまでも安全で安心して暮らせるまち」としていくため、消防団活動に全力で邁進していく所存であります。

今後とも、皆様の一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。



山科消防署の沿革

～自治体消防発足前～	
昭和 7年 2月 16日 (1932年)	竹鼻外田町に八坂消防署 山科消防出張所 開設 ポンプ車 1台 配置
昭和 7年 8月 3日 (1932年)	竹鼻四丁野町に移転
～自治体消防発足後～	
昭和23年 3月 7日 (1948年)	京都市八坂消防署山科消防出張所 開設
昭和25年 4月 1日 (1950年)	京都市東山消防署 山科消防出張所に改称 ポンプ車 2台 配置
昭和36年 12月 21日 (1961年)	山科消防出張所に 救急車 1台 追加配置
昭和39年 4月 1日 (1964年)	京都市東山消防署 山科消防分署に昇格 ポンプ車 1台、水槽車 1台、救急車 1台 配置
昭和47年 11月 21日 (1972年)	現在地(西野今屋敷町)に新築移転 はしご車 1台 追加配置
昭和51年 4月 1日 (1976年)	京都市東山消防署 勧修寺消防出張所 開設 ポンプ車 1台 配置
昭和51年 10月 1日 (1976年)	山科区に分区、京都市山科消防署に昇格
平成 2年 10月 2日 (1990年)	勧修寺消防出張所に救急車 1台 追加配置
平成13年 4月 1日 (2001年)	京都市山科消防署 大塚消防出張所 開設 ポンプ車 1台、化学車 1台 配置
平成13年 10月 1日 (2001年)	京都市山科消防署 発足25年 全配置車両 消防車10台、高規格救急車3台、 その他車両3台
平成18年 10月 1日 (2006年)	京都市山科消防署 発足30年 全配置車両 消防車12台、高規格救急車3台、 その他車両2台

山科消防団の沿革

明治27年 (1894年)	山科地域で「山科村消防組」(宇治郡)結成
大正期	「山科町消防組」となる
昭和 6年 (1931年)	山科地域が京都市東山区に編入
昭和14年 (1939年)	「消防組」から「警防団」となる
昭和23年 6月 (1948年)	「京都市消防団条例」制定 山科地域においても、旧警防団員及び青年 会員等の中から消防団員を選
昭和23年 7月 (1948年)	八坂消防団 鏡山分団・山階分団・音羽分団 結成 山階小学校において合同結成式挙
昭和23年 7月 (1948年)	知恩院山内眞葛庵において八坂消防団 結成式挙
昭和23年 8月 (1948年)	京都市全市6消防団の結成式挙 (上、下、八坂、北野、加茂、深草の6団)
昭和23年 10月 (1948年)	勧修分団新設(山科地域では4分団)
昭和25年 4月 (1950年)	「八坂消防団」が「東山消防団」に改称
昭和51年 10月 1日 (1976年)	山科消防団発足 山科地域の4分団と陵ヶ岡、山階南、安朱、 大塚、大宅及び百々分団が新設、 合計10分団で「山科消防団」が発足 (初代 山科消防団長 吉井 真澄 氏 就任)
昭和55年 4月 (1980年)	小野分団新設(11分団)
昭和56年 4月 (1981年)	音羽川分団新設(12分団)
昭和 57年 4月 (1982年)	西野分団新設(13分団)、 現在と同じ13分団体制となる
昭和63年 (1988年)	2代目 団長 松下 昭 氏 就任
平成 4年 (1992年)	京都市内で初めて女性消防団員を任命 (音羽川分団2名)
平成 5年 (1993年)	3代目 団長 大芝 竹二 氏 就任
平成14年 (2000年)	4代目 団長 川中 長治 氏 就任 (現在に至る)
平成18年 10月 1日 (2006年)	山科消防団 発足30年

山科消防署の変遷



昭和51年

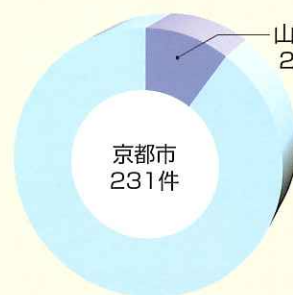
統一スローガン

町ぐるみ 職場ぐるみで 防火のそなえ

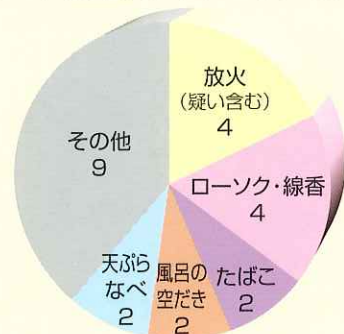
昭和51年10月1日、東山区から山科区への分区に伴い、山科消防署・山科消防団が誕生しました。第一次オイルショックでのトイレットペーパー買い占め騒動も落ち着きを見せ、高度経済成長は終わりを迎えたと言われたものの、やがて来るバブル景気を予感させる、まだまだ元気な日本でした。

20年連続火災減少がストップしたこの年、少々の懐かしさとともに山科区の火災状況を見てみましょう。

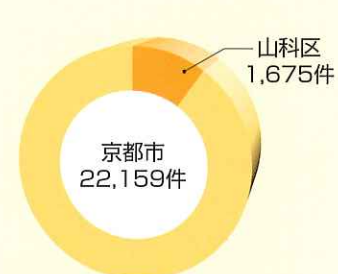
昭和51年 火災発生件数



昭和51年 原因別等火災発生件数(山科区)



昭和51年 救急出動件数



- 炉・かまどなど、煙突からの火災がなくなりました。これは昭和37年の火災予防条例の施行などで減少したものです。
- 仏壇のローソク・線香などによる火災、風呂の空だきによる火災が多かったです。
- たばこによる火災は、今ほど多くありませんでした。
- その他には、落雷・もみぐらをいびして出火したなどの原因がありました。

山科消防署では、日頃から安全・安心の山科を目指して活動しています。



山科自衛消防隊訓練大会



訪問防火指導



普通救命講習



あつまれファイヤーキッズ



消防訓練(夏の文化財防火運動)



FIRE PR DOG(消防広報犬)認定式



平成18年

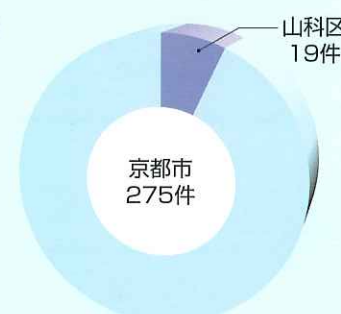
統一スローガン

ひと・まちの「絆」でつくる 安心都市・京都

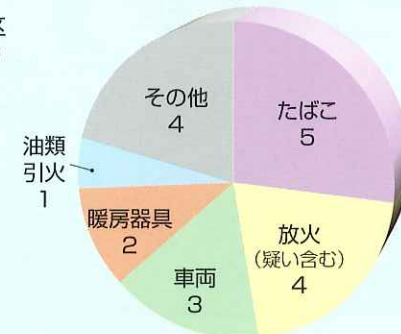
阪神・淡路大震災を経験し、消防の業務も防火から防災へと広がりを見せたことに伴い、統一スローガンも様変わりしました。火災件数について、京都市では平成17年は前年に比べわずかに増加しましたが、山科区は前年比マイナス7件と大幅な減少で、30年前よりも少ない火災件数を記録しました。

対して救急件数は増加の一途をたどるとともに、救急救命士制度の開始、処置範囲の拡大など、救急業務は30年前と比べ物にならないほど高度化しています。

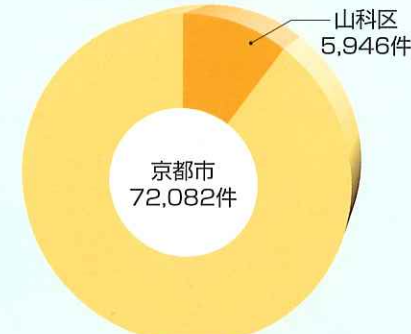
平成17年 火災発生件数



平成17年 原因別等火災発生件数(山科区)



平成17年 救急出動件数



- 風呂の空だきによる火災は、昭和55年の空だき防止装置の設置義務化により、現在はほとんどありません。(昨年は0件)
- 住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。(新築住宅は平成18年6月1日から、既存住宅は平成23年5月31日までに設置してください。)

山科消防団の変遷

昭和51年

昭和51年当時の山科消防団の状況

分 団 数	10分団	鏡山、山階、音羽、勧修、 陵ヶ岡、山階南、安朱、大塚、 大宅、百々
団 員 数	189名	
女性団員数	0名	
発足時の主な装備	65mmホース、管槍、とび口、防水シート、消火栓キー、警戒ロープ、 電気メガホン、携帯ライト、梯子、スコップ、つるはし	



山科消防団総合査閲



分列行進



防水シートによる被覆操法

平成18年

平成18年の山科消防団の状況

分 団 数	13分団	鏡山、山階、音羽、勧修、陵ヶ岡、 山階南、安朱、大塚、大宅、百々、 小野、音羽川、西野
団 員 数	229名	
女性団員数	12名	
平成8年・17年に 増強配置された装備	救助用器材 可搬式ウインチ、ジャッキ、ハンマー、手斧（破壊工具パール） 救援用器材 担架、救護者テント、折りたたみ式リヤカー 消防用器材 小型動力ポンプ式、組立式水槽（3t）、ジェットシューター 水難救助用器材 救命浮環、救命ロープ	



山科消防団出初式



小型動力ポンプ操法訓練



ふれあい山科区民まつり



山林訓練



水防訓練



防災指導

防火・防災歳時記

1月11日

京都市消防出初式

消防署員・団員による行進や訓練を皆様に披露し、安全・安心のまちづくりへの決意を新たにします。

1月15日～21日

防災とボランティア週間

1月17日

防災とボランティアの日

1995年の阪神・淡路大震災以降制定された日。この日に非常召集訓練と大規模震災訓練を実施しています。

1月23日～29日

文化財防火運動

文化財を有する社寺等に対する防火指導や文化財市民レスキュー訓練などを実施します。

1月26日

文化財防火デー

3月1日～7日

春の火災予防運動

各家庭への訪問防火指導や事業所での消防訓練など、いろいろな行事を実施します。

4月20日～26日

山林防火運動

山林火災が多発するこの時期、山林訓練やパトロール、広報活動などを行います。

6月第1日曜日

～1週間

危険物安全週間

危険物を取り扱う施設の点検や検査、区民の方へ広報活動などを行います。

7月12日～18日

夏の文化財防火運動

文化財を有する社寺等に対する防火指導や、文化財市民レスキュー訓練などを実施します。

8月30日

～9月5日

防災週間

9月1日

防災の日

京都市総合防災訓練が実施されます。

9月9日

救急の日

救急医療週間中は、各事業所の方を対象にした普通救命講習会や区内の病院関係者と救急隊との医療検討会などを実施します。

11月9日

119の日

11月9日～15日

秋の火災予防運動

火災の多発する冬期に向けて、各家庭への訪問防火指導や事業所での消防訓練など、いろいろな行事を実施します。

12月15日

～31日

年末防火運動

年の瀬のあわただしい時期は、失火による住宅火災が多発するため訪問防火指導や巡回広報を実施します。

山科消防団出初式（1月）

消防団員による行進や、訓練を皆様に披露しています。

山科消防団震災対応訓練（1月）



ひなまつりコンサート

新入消防団員任命式（4月と10月の2回）

新たに入団された方に、辞令が交付されます。

山科消防団山林訓練（4月）

山科消防団総合査閲（5月）

消防団員の資質及び能力の向上を図り、地域の皆様に日ごろの訓練の成果を披露しています。

京都市消防団総合査閲（6月）

山科消防団水防訓練（6月）

四ノ宮地蔵会消防団警備（8月22日、23日）

四ノ宮地蔵会に、消防団警備本部を開設し、消火活動及び急病人などの応急救護活動を行います。



ふれあい山科区民まつり

ふれあい山科区民まつり（11月23日）

毎年山科消防団が防災・防火・救急についての広報活動を実施しています。平成17年から「ヒガデンジャー」というヒーローを誕生させ、広報劇を実施して好評を博しています。

山科消防団年末特別警戒（12月）

山科義士まつり



毎月5日・20日は 無火災推進日

30th 時代に即した防火・防災への取組

平成18年、京都市消防局では「住宅用火災警報器」「自動体外式除細動器（AED）」に関する取組を、重点指導項目に掲げています。山科消防署ではこれらの普及と啓発を積極的に行うとともに、「自主防災会」や「少年消防クラブ」などの活動をとおり、火災予防だけでなく、あらゆる災害に対する備えの強化に力を入れています。

住宅用火災警報器



火災で死亡に至る原因の約7割は、逃げ遅れによるものです。火災発生によって生じる煙や熱を感知し、警報音や音声で知らせてくれる「住宅用火災警報器」の設置が義務付けられました。それに伴い山科消防署でも積極的に普及と啓発に力を入れています。



天井、壁取付け兼用タイプの住宅用火災警報器（煙感知式）



天井、壁取付け兼用タイプの住宅用火災警報器（熱感知式）



壁取付け式の住宅用火災警報器（煙感知式）



山科区でいち早く全世帯に設置

陵ヶ岡学区 石塚町町内会長 柳生 金祐氏



防災部長の土橋さんと相談し、町内に住宅用火災警報器の設置を呼び掛けたところ、住民の皆さまの御理解を得られ、今回、全世帯に設置される運びとなりました。いち早く、安心を手に入れることができたと思います。これに慢心せず、今後とも町内で防火防災に努力したいと考えております。

自動体外式除細動器（AED）

救命のためには「早い通報」「早い応急手当」「早い応急処置」「早い救命処置」の4つからなる『救命の連鎖』がスムーズに連携することが必要不可欠です。京都市消防局では、救命の現場に居合わせた人による、自動体外式除細動器（AED）を用いた応急手当の普及啓発を推進しています。区民の皆さんが集まるイベントなどを対象にAEDの貸し出しも行っていますので、御希望の方は山科消防署救急係（TEL075-592-9755）までお問い合わせください。



AEDとは、Automated External Defibrillator（自動体外式除細動器）を指し、心臓停止傷病者の心電図を自動解析し、除細動（電気ショック）が必要な場合に音声等の指示により除細動を与えることができる医療機器です。日本国内においては、平成16年7月から非医療従事者による使用が可能になりました。



自主防災会

自主防災組織は、住民の「自らのまちは自らが守る」という精神により、効果的な組織活動を実施することを目的に結成された組織で、自主防災会はおおむね学区を単位とするものです。山科区では昭和63年11月に、全ての学区で結成されました。これは全市でも2番目の早さです。

自主防災組織は、住民の「自らのまちは自らが守る」という精神により、効果的な組織活動を実施することを目的に結成された組織で、自主防災会はおおむね学区を単位とするものです。山科区では昭和63年11月に、全ての学区で結成されました。これは全市でも2番目の早さです。



ジャッキを用いた救出訓練



バケツリレーによる消火訓練



避難所運営訓練

京都市山科少年消防クラブ

少年消防クラブとは、少年少女が防火・防災に関する知識や技術を学ぶとともに、団体行動を通して防火マナーを身に付けた社会人になることを目的とする団体で、山

科では昭和56年3月1日に結成されました。小学校4年生から6年生まで、毎年50名前後のクラブ員が年間10回程程度の活動を行っています。



宿泊研修（7月例会）



放水訓練（11月例会）



地元施設訪問（12月例会）

山科幼年消防クラブ

平成18年現在、山科区内の7保育園、約260名のクラブ員が活動。写生会や花火指導などを通じて、幼少の頃から消防に親しむ機会を設けています。毎年1月の京都市消防出初式では、市民の皆さんにかわいい声で「火の用心」を呼び掛けています。



出初式の様子

やましな市民防災会議

区内13学区にある自主防災会の意見交換や交流などを行う場として創設された、やましな市民防災会議。第1回会議は平成17年12月11日にアスニー山科研修室で開催、京都大学防災研究所巨大災害研究センターの矢守助教授を講師に招いて防災研修会を実施し、59名の参加者が活発に意見交換を行いました。

また、当日の内容等を紹介した「やましな市民防災会議ニュース」を発行し、区民の方々にお知らせしました。



山科区の防災拠点



①山科消防署
〒607-8341 山科区西野今屋敷町2番地の10
TEL 075-592-9755 FAX 075-591-1999
山科消防団本部
(団長 川中長治 副団長 森本彦次、岡本満、森田武士、平野永二)



②勸修寺消防出張所
〒607-8226 山科区勸修寺仁王堂町27番地の6
TEL 075-573-0119



③大塚消防出張所
〒607-8134 山科区大塚北満町23番地の1
TEL 075-595-0240



④鏡山分団(分団長 山本弘次)
山科区御陵血洗町18番地



⑤陵ヶ岡分団(分団長 吉田義明)
山科区御陵岡町45番地



⑥山階分団(分団長 中野秀治)
山科区西野大手先町20番地



⑦西野分団(分団長 吉井栄作)
山科区西野瀬川町34番地



⑧山階南分団(分団長 田中眞司)
山科区東野八代10番地



⑨安朱分団(分団長 上村承生)
山科区安朱山川町17番地



⑩音羽分団(分団長 前田正行)
山科区音羽森廻り町32番地



⑪音羽川分団(分団長 川中隆司)
山科区音羽森廻り町36番地若宮八幡宮内



⑫大塚分団(分団長 中川吉和)
山科区大塚野満町86番地



⑬勸修分団(分団長 寺田健三)
山科区勸修寺栗栖野町42番地



⑭大宅分団(分団長 山本喜裕)
山科区大宅五反畑町69番地の2



⑮百々分団(分団長 進藤謙二)
山科区西野山百々町173番地の1



⑯小野分団(分団長 川上文雄)
山科区小野蚊ヶ瀬町2番地